

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101835		
法人名	(株)三協ホーム		
事業所名	グループホーム 善知鳥サニー・ライフ		
所在地	青森市佃2丁目20-18		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とのコミュニケーションを充実させて、何でも話せるような雰囲気づくりに気を配っている。  
入浴日以外の日の足浴と起床時の清拭を実施し、清潔にすることで「心地よさ」を感じていただけるようにしている。  
街中のグループホームとして地域の方々との交流も多く、中学生の職場体験・体験ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行っている。また、生け花ボランティアの方に来ていただき、入居者様の心が癒されるように取り組んでいる。また、運動不足解消のために「下肢体操」を10時と15時に行ったり、脳の活性化のために「音読」「ぬり絵」「計算ドリル」を一人ひとりに合った方法で行ったり、月1回は職員が工夫して、全入居者様対象に音楽療法を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

都市型グループホームの利点を最大限に活かしているホームである。  
ホームの近くには中学校、高校、大学があり、定期的に様々な交流を図っている。  
また、利用者は毎日、ホーム内で行われる脳活性化プログラムである計算や体操、散歩等を行い、活動終了後、自ら手作りカレンダーに丸印を付ける等の取り組みを行っており、また、職員は折に触れて理念を振り返りながら利用者にとって何が大切か考え、利用者が楽しく、幸せに暮らせるよう、日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念として「その人らしく たのしく しあわせに」を掲げており、地域でその人らしく生活していただけるよう実践している他、各ユニット毎の介護理念を掲げて取り組んでいる。また、家庭的な雰囲気の中で役割や生きがいを持っていただけるよう支援し、実践している。	「住み慣れた地域で安心して暮らせる社会がモットーの都市型グループホーム」ということを標榜しており、利用者が地域の中で自分らしく生活していけるよう、独自の理念を掲げ、日々のサービス提供に取り組んでいる。職員は折に触れて理念を振り返り、利用者にとって何が大切か考えながら、利用者が楽しく、幸せに暮らせるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の方々のご協力により、当事業所前の「花壇作り」や近隣の中学校の「職業体験」の受け入れ、市社協の「体験ボランティア」の受け入れ等、地域との交流は地域の方々のご協力もあり、充実している。	日頃から近隣住民と気軽に挨拶を交わしている他、行事の際等は近隣のコンビニの駐車場を開放していただく等、協力を得ている。また、中学生の職業体験やボランティア等の受け入れも行い、積極的に地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、グループホームの役割等を説明し、理解をいただいている。また、町会役員の方や民生委員に、認知症や介護において困っている方々への相談を行っている事をお伝えしている。近隣の方の介護についての相談もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・ご家族様・地域住民・地域包括支援センター・経営者の参加を継続していただいております。資料提供をしながら、色々な意見を出し合い、運営に結びつけている。また、外部評価後の「目標達成計画」や実施後の状況についても、運営推進会議において発表の場を設け、周知している。	年間計画を立て、2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。また、できるだけ参加者を多くするために、会議では行事予定やホームの概況等を報告するだけでなく、参加者のためになるような内容を検討し、認知症や身体拘束等に関する話題提供も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、地域包括支援センター職員に参加していただき、助言・相談をいただいている。また、市役所担当職員にも働きかけを毎回行い、時々参加いただいている。	地域包括支援センター職員や市役所職員が運営推進会議に参加しており、その都度、ホームの実情等を具体的に説明し、理解していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修を行い、理解を深め、全職員で実践に取り組んでいる。また、玄関は自由に出入りできるよう、鍵をかけた見守りを行い、安心して生活していただけるように配慮しながら、工夫して取り組んでいる。	外部研修参加者の報告やホームで行われる会議で定期的に議題として取り上げ、職員は身体拘束について理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、マニュアルを作成し、職員がいつでも見ることができるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が各ユニット毎の会議で、高齢者虐待防止についての内部研修を行い、理解を深めている。また、虐待についても、認知症ケアマニュアルや虐待防止マニュアル、虐待発見時の対応等を、全職員が見ることができる場所に配置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度についてマニュアルを準備し、全職員が見れる場所に置いている。外部研修にも参加し、制度について理解を深めている。また、関係機関に相談して、現在、成年後見制度を利用されている入居者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人様・ご家族様等へ事業所の理念やケア方針を説明し、重要事項についても説明を行っている。また、入居後でも、今後について相談があれば、その都度支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様等からの苦情受付の体制に関して、重要事項説明において明記し、国保連・市の介護保険課でも苦情受付をしていることを伝えている。また、面会時に記入していた「面会用紙」にも、改善を求めたい点を記入できるように工夫している他、ご家族様へのアンケートも実施して、苦情にまで至らない意見等も聞く機会を設けている。	重要事項説明書への明記やホーム内への掲示により、ホーム内外の苦情受付窓口を明示している。また、面会時に記入していただく「面会用紙」にも、ホームへの要望等を書く欄を設けており、出された意見等に速やかに対応する体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい入居者様の受け入れ時には、職員と管理者・ケアマネジャーとの判定会議にて話し合いを持ち、意見を反映させている。	月1回の各ユニットの会議等で、職員が自由に意見を述べる機会を設けている。出された意見については、必要に応じて、ホームを運営している会社へかけ合い、反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム職員から意見を聞き、給与・シフト・手当等への反映に努めている。また、勤続年数によって、事業主からの表彰もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を図るため、外部研修に職員が参加できるよう努めている。外部の研修受講後は伝達研修を行ったり、資料の回覧を行い、職員から押印してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・交流会等には参加している。また、ケアマネジャーが認知症グループホーム協会東青地区の研修委員として参加させていただき、近隣のグループホームとの情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた方のニーズ・相談内容を把握するため、見学の際に、了承が得られる場合は相談票を作成し、管理者・ケアマネジャーで情報を共有して、継続的な相談ができる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様のキーパーソン・ご本人様・管理者・ケアマネジャー・担当職員が参加し、今後のサービスについて入居後のサービス担当者会議を開催し、意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様等の思いを明確にして、当事業所で支援できるサービスを含めて説明し、必要時には関係機関に相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の喜怒哀楽の感情表現へは、表現できる信頼関係ができていると捉え、ご本人様のストレンクスとして考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様はご本人様を支えていく重要な存在として、ご家族様の喜怒哀楽は、直接ご本人様と関わるため、その感情を力の源とし、ご本人様のために役立てたり、信頼関係構築のきっかけにさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の生まれ育った土地や行きたい所へ出かけることを支援したり、ご家族様との電話のやりとりを継続できるよう支援している。	利用者が生まれ育った土地や行きつけの場所等を把握して、個人記録に記入しており、利用者が行きたい所へ出かけたり、電話や手紙のやり取り等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に寄り添い、コミュニケーションを図り、傾聴し、信頼関係を築けるよう対応している。また、毎日の生活の中で、入居者様同士で得意な事等を共に行ったり、補助し合えるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所された後の入所先を支援したり、相談先として関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームに入居される前の住環境に近い状態の環境づくりを心がけている。また、大切な家具等を持ち込んでいただけるよう声がけをしている。	利用者の今までの生活を大切にし、馴染みの物の持ち込みを居室づくりに活かしたり、長年趣味としている生花ができるよう、ホームとして週1回教室を開く等、利用者の思いや意向に配慮した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の趣味・嗜好に配慮し、安心して暮らしていただけるよう支援している。また、アセスメントにおいても、ご本人様の生活歴やライフスタイル、入居前の生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方その方の残存機能を活かした、できる事・できない事を把握し、力の発揮を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に、ご本人様・ご家族様・管理者・ケアマネジャー・担当職員の参加するサービス担当者会議にて意見交換をし、利用者本位のサービス計画を行っている。モニタリングを3ヶ月に1回作成し、ご本人様にとってより良い生活を目指している。	介護計画は利用者や家族の意見、担当職員の情報等を基に、サービス担当者会議を開き、職員間で十分に話し合いの上、作成している。また、介護計画の実施期間を明示している他、状況が変化した時等はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを各担当職員が記入をすることにより、気づきやケアの目的・理解を共有し、24時間体制で心身の状況や変化を記録して、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム側でできる支援は行っているが(医療連携・外出支援等)、サービスの多機能化への取り組みは特に行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方や町会役員の方々、地域のボランティアの方々に出入りをいただき、利用者との「架け橋」として、多大なご協力をいただいている。また、地域の冬祭り・盆踊り・秋祭り等への参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用時や内科以外の診療が必要とされた場合、ご本人様・ご家族様に相談し、かかりつけの医療機関や馴染みのある医療機関を受診できるよう配慮をしている。また、ご家族様との通院をしていただいている入居者様もあり、ご家族様を通して医療機関との情報共有も行っている。	利用者のこれまでの受療状況を把握し、記録しており、希望に応じて、かかりつけ医に継続受診できるよう支援している。また、認知症の専門医や24時間対応の医療機関との連携もあり、利用者や家族の希望を取り入れながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携の体制をとっており、2週間毎のご本人様の体調や受診時の変化等を報告して相談を行い、記録を双方で保管している。入居者様も体調不安等がある場合には、訪問された顔馴染みの看護師に積極的に相談されている場面がみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、どのような療養がとられるのか、また、今後の生活に関しても、ケアを行う上での情報等を担当の医師、または看護師等との情報交換がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ご本人様・ご家族様へ「重症化した場合におけるグループホームの指針」を伝え、ご家族様・ご本人様の意見に沿うようにしている。	指針を作成し、利用者の重度化や終末期に向けたホームの方針について、入居時に説明を行っている。また、訪問看護ステーションとの24時間体制の連携の下、利用者や家族の意向に沿えるように支援していく他、不安がある場合は病院や他施設に移ることも支援する体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法講習会に職員が参加し、講習修了証をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して、職員の対応の確認やマニュアルの変更等を行っている。また、地域の消防団に参加していただいたり、運営推進会議において、避難訓練の状況を定期的に報告し、地域の協力体制づくりにも取り組んでいる。2011年3月11日に発生した「東日本大震災」において、停電・余震があった際は、職員を通常より多く配置し、入居者様の不安に配慮した対応を行った。また、地域との災害時の関わり方や地域の避難所に関して、運営推進会議で意見交換を行った。	日中・夜間を想定し、年2回、避難訓練を実施しており、訓練時は地域の消防団の協力を得て、利用者と職員が一緒に取り組んでいる。また、運営推進会議でも議題として取り上げながら、会議のメンバーにも協力と理解を得られるように働きかけている。災害発生時の非常用品として、乾パンや飲料水等を準備している他、寒さ対策としては建物自体の保温効果もあり、毛布等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った話し方や対応を心がけている。また、年長者である入居者様に失礼の無いように、敬意をもった対応で接している。	日頃のケア時の観察を密に行い、利用者一人ひとりの人格を否定することなく、その人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけをしている。職員は採用時に守秘義務についての誓約書を提出し、個人情報の取り扱いに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時、行事等の場所の決定や食べに行きたい物等を、入居者様と日常生活の中で話し合い、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、時間に追われるように感じる事が無いように配慮し、声がけを行い、自由な過ごし方を優先している。また、入居者様の訴えを、業務があるからと言って後回しにせず、柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回は理容師の方にホームへ来ていただいております。今では顔馴染みでもある他、入居前からの付き合い等のある理・美容院に出かけられる方もいる。また、季節に合った服装となるよう、声がけにて行っていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士によるカロリー計算のなされた献立となっている。食事の仕度、片付け等は、お手伝いをしていただける入居者様と共に行っている。	献立は委託業者の栄養士が作成している他、定期的に利用者の嗜好調査を行い、食材会議も行っており、苦手なものには代替食を提供する等、配慮している。また、利用者の意思や体力等に合わせ、テーブル拭き等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の合計は毎日の記録として記入し、保存している。食事についても摂取量を記録している。また、入居者様の好き嫌いについても、委託の栄養士により、別メニューの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣等にも配慮し、口腔内の清潔保持ができています。夜間は、洗浄剤を自ら管理できない方へは、職員がご本人様から同意を得て管理を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のコントロールが困難な方においては、ご本人様に介助しても良いか、その都度確認を取って介助を行い、プライバシーに配慮している。失禁に関しても、身体の老化が原因なのか、トイレの場所がわからずに失禁してしまうのか等、その方に合ったケアを検討し、自立を目指している。	利用者一人ひとりの排泄の記録をしており、パターンを把握して事前誘導を行っている。また、会議ではおむつの使用を継続するか否か等、検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の記入シートを作成し、活用している。水分の摂取量にも配慮して、日中の運動等も取り入れ、便秘になる前の対策に力を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は一人ひとりに合わせた対応とし、湯の温度を調整したり、男性職員の介助が嫌な方には女性職員が介助に入るよう対応している。また、各ユニット毎に入浴日をずらしており、希望日に入浴できるよう配慮している。	入浴は個別入浴を基本としているため、職員が密に対応しており、利用者に合わせてお湯の温度を調整したり、好きな香りのボディソープを使用する等して、入浴を楽しめるよう支援している。また、利用者の入浴習慣等に配慮しながらも、浴室に時計を置いて時間を見ながら、浸かり過ぎに注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠や夜間の不眠に関しては、医師との情報交換・相談をし、必要であれば眠剤の服用等の指示を仰いでいる。また、日中の活動時間の見直し等も個々に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋は個人ファイルに保管し、内容を把握できている。処方箋の変更時には、変更のあった薬を他の職員にも周知している。また、介護施設に対して意見を聞いていただける薬局との契約を、家族の了承を得て行い、誤薬が発生しないよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様毎に、今まで行っていた趣味等があれば、希望により行えるよう支援している。個々の生活歴を把握し、その方その方の力を活かせるよう働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としての定期的な外出の他、近隣のお店まで歩いて買い物をされる入居者様に支援を行ったり、散歩へ行く等している。また、町会の方々のご協力により管理をさせていただいているホーム前の花壇に関しても、入居者の皆様の力を借りて、毎日の管理を一緒に行っている。	利用者の行きたい場所の把握に努め、季節毎のドライブ等の外出行事を計画している他、散歩や近隣のコンビニへの買い物等、日常的な外出支援に取り組んでいる。また、利用者の希望が叶えられるよう、必要に応じて家族にも協力を呼びかけており、墓参り等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自らが金銭管理を行っている方もおられた。また、金銭管理の難しい方でも、ご家族様の了承等があれば、小額でも金銭管理をしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方には直接かけていただき、そうでない場合は職員が対応している。電話をかけたい時や手紙を出したい時等に、こちらの都合等で拒否することはしていない。また、居室に電話回線を準備しており、電話の持ち込みも可能となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けを行っている。テレビ前の共用スペースは家庭的な雰囲気づくりに配慮している。	ホールにはソファや肘掛け椅子があり、利用者は思い思いに過ごすことができる他、絵や季節の飾り付け、神棚もある。また、職員が立てる物音や声、テレビ等の音量、明るさ等も適切で、空調管理もなされ、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファにて談笑されたり、また、テーブル席等でお茶を飲みながら団欒される方もおり、思い思いに過ごせる環境ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人様の使い慣れた家具等を持参していただいている。また、ご家族様との写真を壁面に飾る方もいらっしゃる他、冷蔵庫やテレビの持ち込みも可能である。	居室には入居前から使用しているタンスや椅子、写真等を持ち込み、居心地良く、利用者一人ひとりの個性が出る居室づくりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全を考慮し、玄関やトイレ、浴室等に手すりを設置している。また、トイレは車イスの方も使用できるような広さを確保している他、左右の片マヒのある方でも使用しやすいように、左右逆の造りの手すりを配置する等、工夫がされている。		